

美味しい「コシヒカリ」の移植栽培基準

540kg穫り収量構成の目安

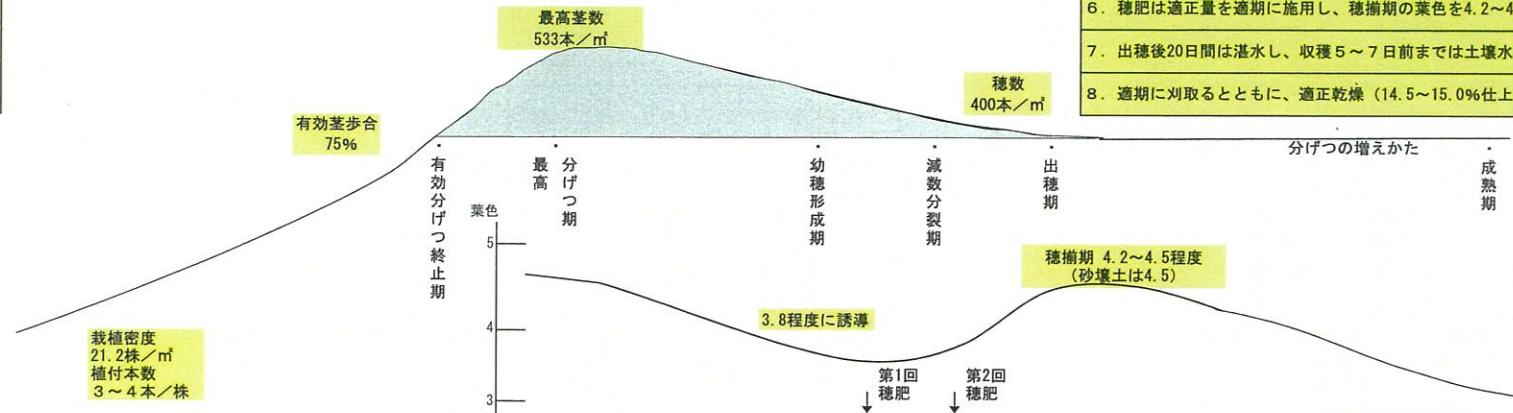
収量構成	目安
m ² 当たり最高茎数(本)	533
有効茎歩合(%)	75
m ² 当たり穗数(本)	400
平均一穂粒数(粒)	70
m ² 当たり着粒数(百粒)	280
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5

土壌区分別施肥設計(kg/10a)

施肥	土壤区分	チッソ 施用 量		三要素合計		
		基肥 (側条施肥)	穗肥 出穗15日前	チッソ	燐酸	加里
分施	沖積砂壤土	3.0~4.0	1.5	2.0	6.5~7.5	7.0~9.0
	洪積赤土、黒ボク	2.4~4.5	1.5	1.8	5.7~7.8	8.0~12.0
施肥	土壤区分	肥料名	施肥量	チッソ	燐酸	加里
基肥一発	沖積砂壤土	Jコートコシヒカリ1号	30~35kg	6.3~7.4	2.7~3.2	5.4~6.3
	洪積赤土、黒ボク	Jコートコシヒカリ2号	25~35kg	5.3~7.4	2.3~3.2	4.5~6.3

栽培のポイント

- 育苗日数19日間、ハウスの温度管理に注意して、健苗を育成する。
- 5月15日を中心として、好天日に田植えを行う。
- 株数は、坪当たり70株を植え、良質の茎を早く確保する。
- 適正な中干しにより根の活力を高めるとともに、過剰分けつを防ぐ。
- 幼穂形成期の葉色を3.8に誘導し、以降は飽水管理で葉色低下を防ぐ。
- 穗肥は適正量を適期に施用し、穗揃期の葉色を4.2~4.5に誘導する。
- 出穗後20日間は湛水し、収穫5~7日前までは土壤水分を維持する。
- 適期に刈取るとともに、適正乾燥(14.5~15.0%仕上げ)に努める。



月 日	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
生育期区分	4/26	5/15	6/12	7/13	8/5	9/13
育苗期	田植期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	登熟期
水管理	やや深水	浅水管理	中干し	間断かん水	飽水管理 (足跡の水が切れないように管理する)	出穂から20日間は湛水管理
栽培管理のポイント	・葉いもち予防のため苗箱施肥を行う。 ・育苗ハウスが二十五度以下になるよう管理。 ・播種日は四月二十六日を中心とし、十分に浸種して芽出しを確実に行う。 ・地面の均平を図る。 ・低速で耕起し、作土十五cm以上を確保。	・播種量は一箱当たり七十株を植え、基肥量は地区基準量を守る。 ・良質の茎を早く確保する。 ・株数は坪当たり七十株を植え、基肥量は坪当たり四百本とする。 ・播種量は一箱当たり一二〇g以下。 ・播種日は十九日間を目標とする。 ・播種日は四月二十六日を中心とし、十分に浸種して芽出しを確実に行う。 ・地面の均平を図る。	・葉いもち予防のため苗箱施肥を行う。 ・育苗ハウスが二十五度以下になるよう管理。 ・播種後はやや深水として活着を早める。 ・三cm程度の深さに植える。 ・一株の植付け本数は三~四本とし、良質の茎を早く確保する。 ・株数は坪当たり七十株を植え、基肥量は坪当たり四百本とする。 ・播種日は十九日間を目標とする。	・高めるとともに、過剰分けつを抑制。 ・適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに、過剰分けつを抑制。 ・活着後は浅水管理をして、水の浸透率を高める。 ・六月一ヶ月から溝掘りを行い、分けつの発生を促す。 ・活着後は浅水管理をして、水の浸透率を高める。 ・田植後はやや深水として活着を早める。 ・三cm程度の深さに植える。 ・一株の植付け本数は三~四本とし、良質の茎を早く確保する。 ・株数は坪当たり七十株を植え、基肥量は坪当たり四百本とする。 ・播種日は十九日間を目標とする。	・幼穂形成期以降は飽水管理を行う。 ・カメムシ類は穗揃期防除を中心に確実に行う。 ・穂いもちは出穂直前と穗揃期に二回防除。 ・穗揃期の葉色を四・二・四・五に誘導。 ・その七日後に二回施用する。 ・穗肥は出穂十五日前と。	・秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 ・福わらの腐熟を促進するため、珪酸石灰は一〇アール当たり、一・九ミリのふるいで選別する。 ・圃割米や過乾燥米の発生を防止。 ・仕上水分十四・五・十五・〇%を厳守し、黄化率八五・九〇%程度で適期に刈取る。 ・刈取り予定日の五・七日前までかん水。 ・フェーン時は湛水して、圃割被害を防ぐ。